

# 移転構想 自分たちで

建築士らの意見を聞きながら、集団移転後の街づくりについて考える小泉地区の住民たち（11月28日、宮城県気仙沼市で）



東日本大震災の津波で壊滅的被害を受けた宮城県気仙沼市小泉地区の住民が11月、独自の集団移転構想を市に示した。合意形成に手間取る地域が多い中、「子や孫が住む街は自分たちで作る」との思いで議論を重ね、今も住宅の色調や素材まで徹底した話し合いと勉強を続けている。国土交通省の担当官や専門家は「復興のモデルケース」と注目している。（山下真範）

## 「子や孫も住む街」住宅の色も議論

補地を見つけて市に提案後、呼びかけに応じた約150世帯で組織を作り、7月から話し合いを始めた。40人前後が毎回参加し、3班に分かれて討論。案を持ち寄り、北海道・奥尻島の震災後の集団移転に関わった建築士事務所や、北海道大の森傑教授(38)にも参加してもらった。

共同菜園や緑地も設ける案だ。市は「道路や費用の問題もあり調整は必要だが、最大限尊重したい」とする。勉強会は今も続く。住宅の壁や屋根の色や素材も議題に挙がる。「地震があったから瓦はねえ」「ぼあちゃんばトタンでええって」「断熱を工夫しないと。雨音も大変だよ」。意見は尽きない。震災から間もなく9か月。市外に転出する住民もおり、会では早期着工を要望している。

あしたを、つなぐ——野村不動産グループ  
野村不動産ホールディングス  
野村不動産  
野村不動産投資顧問  
野村不動産アーバンネット  
野村ビルマネジメント  
野村リビングサポート  
NREG東芝不動産

## 気仙沼・小泉地区「復興のモデル」

月3回のペースで開かれる勉強会。パート勤めの及川良子さん(63)は「自分たちの街をみんなで一から作る感じ。休むと損(しゅん)と毎回参加する。「数寄屋造りがいいな」「ログハウスはどうか?」。外は冷え込むが、仮設住宅近くにあるプレハブの集会所は熱気に包まれる。小泉地区は市中心部から車で40分ほどの海岸沿いに

ある。白砂青松がサーファ―にも愛されてきたが、津波で全世帯の約6割にあたる308世帯が全半壊した。「地域がばらばらになる」。及川茂昭さん(55)ら40〜50歳代の住民約20人が危機感を募らせ、「小泉地区の明日を考える会」を結成したのは4月下旬。住宅密集地から1キロほど離れた標高約50メートルの高原に移転候

## 道内天候大荒れ 襟裳岬で風速31.9メートル

急速に発達した低気圧の影響で、北海道内は3日、各地で風雪が強まり、降り始めからの降雪量は4日午前0時現在の降雪量は4日午前0時現在、広尾町32センチ、恵庭市31センチ、帯広市で30センチ達した。えりも町の襟裳岬では同0時40分に最大瞬間風速31.9メートルを記録した。大荒れは4日夕方まで続く見込みで、札幌管区気象台は3日

夜、檜山地方と渡島西部に暴風・波浪警報、各地に注意報を出して警戒を呼びかけている。同気象台によると、道内の海沿いでは4日、海上で最大風速25メートル、陸上でも同20メートルとなり、波の高さも最大6メートルと大しけになる見通し。局地的な猛吹雪もあり、4日午後6時までの24時間降雪量は多い所で40〜50センチになるという。

3日は気温も低く、最低気温は幌加内町で氷点下21度、旭川市江丹別町で同20.5度と今冬初めて同20度を下回り、札幌も同4.9度で12月中旬並みだった。東日本高速道路によると、3日午後11時45分現在、雪のため、道央自動車道・札幌ジャンクション(JCT)―滝川インターチェンジ(IC)間と札幌南IC―登別室蘭IC間の上下線が通行止め。また、道東道・千歳恵庭JCT―千歳東IC間、札幌道・銭函IC―小樽

日本GVAインテリジェンスの  
合人社計画研究所  
www.goinn.co.jp  
0120-01-3482

新千歳77便欠航  
新千歳空港では、3日午後から降り始めた雪が次第

IC間の上下線も、それぞれ通行止めとなっている。

刀剣・小道具 目白飯田高遠堂  
創業明治13年  
販売・買入・無料評価鑑定 ☎03(3951)3312  
水曜・土曜定休 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33  
www.iidakoendo.com (JR山手線目白駅下車徒歩左へ3分)